



大野市教育委員会たより

令和元年10月11日発行 第27号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思っております。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：10月8日(火)午後7時～9時	次第	・1部 子育て講演(講師：久保教育長)
場所：大野幼稚園		・2部 意見交換
対象者：大野幼稚園保護者(10人)・保育士(8人)		

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を○、教育委員会の意見を■で表示しています。

- ◎昔、中学校では部活に入るとは強制だったが今はどうか。子どもが少なくなり部活動が選択できなくなっていると聞いているが現状はどうか。
 - ⇒■中学校の部活は、入りたい部活がなくてもどこかに無理して入らないといけなかった。例えば、ある中学校では学校外の硬式野球部やサッカークラブに所属している生徒は、学校の陸上部などに所属していたが無理がかかっている状況であった。結果、週2～3日、学校外のクラブを一生懸命頑張るといことであれば、学校の部活動に入らなくてもよいこととしている。トランポリンやスイミング、野球、サッカーなど学校外のクラブで頑張っている生徒がいる。開成中や陽明中では、ある程度部活の種類はあるが、他の中学校は少ない状況である。とにかく、どこかに所属し、何か(スポーツや文化など)に打ち込む体制は崩していない。
- ◎子どもが小学校で意地悪してくる子がいるため、学校へ行きたくないという状況である。最低限、安心して過ごせる学校になって欲しい。また、同じ内容を繰り返すような宿題など分量が多いため、子どもにゆとりがなく遊ぶ時間がない。
 - ⇒■子どもに対して心配なことがある場合は、担任だけでなく、校長や教頭にも相談していただきたい。教育委員会では個性を大事にしていくことを方針にしている。1人1人の個性と能力があるため、それを担任が見極め、宿題の出し方を変えていこうという検討を行っている。
 - ⇒◎今年の夏休みの宿題は良かった。自分の好きなことを突き詰めることが出来た。
 - ⇒■小学校低学年の時は、機械的な記憶が発達しているため、繰り返し行う音読や計算などの宿題が必要となっているが、今後、宿題の出し方も学校と検討していきたい。
- ◎再編計画を見直ししているとのことだが、何か案があるのか。
 - ⇒■現在、案はない。小中学校の校数、再編時期、再編の方法について、皆さんから意見交換会などで意見を聞いて、案を作り上げていくこととしている。
 - ⇒◎人口が減っている中、意見を聞くなど、いつまでもやっているべきではないと思う。
 - ⇒■意見交換会は、保育所やこども園の後、各地区を回り11月下旬に終わる予定である。その後、意見交換会での意見やアンケート、教育シンポジウムや小中学生対象に行ったアンケートを取りまとめ、来年度以降、検討する組織を設置し、再編計画の見直し案を作っていく予定である。
 - ⇒■児童数は昭和50年と比較すると現在は約4割になっている。出生数も昨年は200人を割っている。この状況において、教育委員会では何らかの再編は必要であると考えている。これからの時代は、学校の授業でも行っているが、自分で考えて、グループで相談し、みんなに提案するなどのコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が必要とされるため、ある程度の規模は必要と考えている。
- ◎再編後の登下校はどのような感じか。周りからは集団登校の集合場所まで、車で送迎していると聞いている。登下校の時間は何時ごろか。また学校には、話せない子、目立つ子、普通の子がいるが、最終的には全体の子どもをどういう所へ持っていこうと思っているか。例えば、桜丘中学校(東京都世田谷区)のような学校(校則を全廃するなど様々な子どもに合わせた柔軟な教育に挑戦している)には、自分の子どもを通わせたいと思うほど、取組みに共感している。日本人の気質である「出る杭は打たれる」のように、「変わろうとしている、自分の道を見つけ始めている」時に、「みんなと同じじゃないといじめられる、先生に注意される」とならないようになって欲しい。人の目を気にして育てて欲しくない。市全体がそのような社会になって欲しい。
 - ⇒■桜ヶ丘中学校の取組みは知っている。開成中に赴任していた時、服装規程を取り払う取組みを生徒と一緒に考え、「中学生らしい服装(髪型や靴下など)」とした。この取り決めの過程を知っている生徒たちから後輩に、うまく歴史が繋がれば良いが、10年ぐら経つと、規定が守られにくくなる経験をした。
 - ⇒■集団登校は地区ごとに行っているが、子どもの数が少なくなり、集団が形成されない場合は、地区をまたいで登下校の班を作る場合もある。下校時刻は、1年生から3年生までは午後3時ぐらい、4年生から6年生までは午後4時ぐらいであり(4年生は時間割によって午後3時の時もある)、集団で下校している。
 - ⇒■今は授業で間違った発言をしても、その間違いについて何故間違いなのかを追求することに変わってきてお

り、1人1人の個性を認めながら集団で学んでいく学校づくりをしている。

- ◎学校再編は、教育委員会だけで考えているのか。市役所のどのような課が学校再編に取り組んでいるのか。
⇒■学校再編は、教育委員会が中心となり考えている。ただし、市長部局と総合教育会議を行いながら情報や課題を共有している。地域から学校がなくなった場合の活性化策などについては、市長部局の関係課が中心となっている。しっかり連携して取り組んでいく。
- ⇒◎学校の維持費はどのように抑えていくのか。
⇒■過去10年間の教育費の平均は、市費全体の約10%（約18億円）である。教育費には、学校教育だけでなく生涯学習、スポーツ、文化関係の経費も含まれている。小中学校の維持管理経費の10年間の平均経費は6億5千万円である。学校数が減れば、維持管理経費は少なくなるが、教育委員会としては抑えられた経費をさらに学校教育の充実に充てられるよう、予算確保をしていきたいと考えている。
- ◎今年の夏休みの宿題で、有終東小は非常に少なく、有終南小はすごく多かったと聞き、学校によって宿題の量にバラつきがあることに衝撃を受けた。自分のしたいことを自主的に出来ることは良いことだと思った。
⇒■有終東小では夏休み後に児童と保護者に対し、夏休みの宿題について意見を聞いた。ほとんどがプラスの意見であったが、子どもの中には「何をして良いか分からなかった」、保護者の中には「もう少し増やしてもらわないと怠けてしまう」という意見も少しあった。この結果を基に、校長会や教頭会を通じて総合的に検証していく。
- ◎今年のプールは何回入れたのか。猛暑が続き、プールに入れないのであればプールは必要か。
⇒■猛暑で中止した学校で一番多いのが7回である。学校の立地場所によって中止回数は違う。郊外の学校ほど中止が少ない。8月に入るとプールを利用する子どもも少ないため、猛暑も含めてプール開放を検討していく必要がある。国の基準により、小学校では体育でプールの授業をしなくはいけぬ。小さい学校では夏休みに入っても泳ぎの苦手な子を指導している。体育連盟でも2日間かけて泳ぎを指導している。
- ◎県外から転校してきた時、猛暑で暑いいため紅白帽子を被って登校したら（県外では常だった）友だちにからかわれたり、先生から止められ、非常に違和感を感じた。また、平成28年度の大雪の時に学校が休業にならず、子どもを通わせなければならぬ。怒りを超えて悲しかった。
⇒■大雪の時はギリギリの判断をした。しっかり、心に留めておく。
- ◎小学校から英語の授業が始まると聞いたが、小学校1年から習うのか。
⇒■国の基準では、来年度から小学校5・6年生で正式に英語の授業を行うこととなる。福井県では先行的に実施されており、今年で2年目となる。小学校3・4年生では外国語活動を行っており、ALT（国際理解教育推進員、市教育委員会で雇用している外国人）と一緒に外国の文化を学んだり、英語の歌を歌ったり、ゲームをしたりしている。
⇒■高校や大学の入試に英語のスピーキングが入ってきている。読み、書き、聞く、話すの力をバランスよくつけなければならない。小学校は楽しみながら学ぶことが中心である。
- ◎中学校の時、友だちが1人、学校に来なくなった。教育委員会としてはどのように対応しているのか。
⇒■保護者もつらい思いをする。今は、つらかったら無理して学校へ行かなくて良いという考え方になってきている。そのような子どもたちのために、青少年教育センター（大野市中野57-6-1）内にフレッシュハウスを設置し、一緒にゲームをしたり、勉強を教えたり、子どもの状況に応じて学習をしたりして、学校への復帰支援をしている。
- ◎幼児期においても教育環境や家庭環境は一番大事な時期である。大野幼稚園では週2回（火・木）、子育て支援として未就園児の保護者の子育ての悩みなどの相談に乗っている。他にも卒園児の保護者の相談も電話などで受けている。先般も卒園児の保護者から子どもが2学期に入り、友だち関係がうまくいかなくなり、学校へ行きたくない日が続いたなどの相談を受けた。教職員によっては、子どもに対する言葉の掛け方や関わり方などにズレがある場合がある。幼稚園でも精一杯、子どもたちに安心の場を作っているが、近年、学校に入ってから、そのギャップがあるように強く感じている。27年度から保幼小の接続が始まっているが、小学校の教職員と温度差を感じている。もっと深まっていけないといけないと思う。子どもたちのためにもっと歩み寄っていきたい。
⇒■卒園児の保護者の方には、必ず学校へ相談して欲しいと伝えて欲しい。教職員にも1人1人力の差がある。子どもが辛い思いをしているので、チームで対応していきたい。教育委員会も中に入り、一緒に対応を考えていく。
- ⇒■20年前に幼保小中の連携に取組み、それが進むことが願いであった。教職員同士の大人のつながりをしっかりやっていかなければならない。



お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。

